

平成13年6月22日

立教大生が週刊メルマガ「ブクロイズム」配信

『池袋西口』を魅力的な街に

立教大学経済学部の廣江彰教授のゼミナールの学生たちが、6月25日(月)から週刊のメールマガジン(メルマガ)を発行する。大学のある「池袋西口」をテーマに、その活性化の糸口と方向を探ろうというもので、タイトルは池袋主義を意味する「ブクロイズム」。4通りの切り口でまとめ、毎週1本ずつ配信する。

池袋西口は東京芸術劇場、立教大学等のスポットがあるにもかかわらず、サンシャイン60のある池袋東口に比べ人の流れが少ない。その上、昨年放送されたテレビドラマ「ウエスト・ゲート・パーク」などの影響もあり、暗い、怖い、汚いといった悪いイメージが固定化しつつある。

こうしたイメージに危機感を抱いた立教大学経済学部の「廣江ゼミナール」の学生たちは自分たちが4年間通う池袋西口をもっと魅力的な街にしたいとの思いから、テーマを「池袋西口活性化」に定め、より実践的な観点から池袋の研究を進めてきた。去年は、その第一弾としてフリーペーパーを二誌、合わせて一万部発行し、池袋だけでなく、新宿、渋谷などの喫茶店、洋服店、映画館などに置いたところ、アンケートやメールも数多く寄せられ、反響を呼んだ。その経験を生かし今年も、昨年度行った雑誌作成をインターネットというツールを使い、週刊メールマガジンを発行することとした。

毎週入れ替わりに配信される企画は全部で4つ。池袋西口で暮らし、働き、学ぶ人たちにスポットを当てた企画が中心で、どれも「人と語る」ことに重きを置いている。池袋西口に来て、まだ2年以内の街の新人さんに池袋西口の印象や良い点、悪い点などをインタビュー形式で伝える第1週目の「西池袋マリナーズ・イケロー」。池袋西口を舞台に、短編小説風に西口の人々にスポットをあてた第2週目の「Western short short」。登場人物に大好きな街を語ってもらい、その街の魅力を西池袋に取り込んで新しい空想都市・西池袋を創造しようとする第3週目の「空想喫茶」。池袋西口をかつてのような、文化、芸術の街にしようと、若い芸術家や演劇する人をとりあげる第4週目の「LINKAGE」。

6月25日に配信される第一回目「イケロー」の登場人物は昨年11月にオープンしたばかりの美容室の店長。以前は暗い汚いというイメージが強かったが、今は西口の人たちの暖かさを感じていることや、「渋谷などにはない人間味のあるにぎやかさが欲しい」など西池袋への期待などを語っている。

立教大廣江ゼミナールゼミ長の一柳さんは、「池袋西口と人をコンセプトに、みんなで街のあり方を考えたい」と話している。配信の申込みは、6月25日からゼミのホームページでできる。

廣江ゼミのホームページアドレス <http://www.rikkyo.ne.jp/grp/hiroeseminar/>

問合せ…立教大廣江ゼミ